

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくり

観光を取り巻く状況の変化

- 人口の減少と地域経済の減退
- インターネットの普及(ホームページ、ブログなどによる情報収集)
- 旅行のスタイル・ニーズの変化(「団体旅行」「物見遊山型」→「個人旅行」「参加体験型」)

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくり

■「住んでよし」＝まちづくり

- ・地域資源の活用、コミュニティの活性化
- ・地域の日常を活かしたまちづくりなど
- 地域住民が誇りと愛着を持つことができる地域の再生

■「訪れてよし」＝観光振興

- ・地域の多様な主体による滞在プログラムの企画・販売
- ・地域住民との交流を通じた観光振興を促進など
- 観光交流人口の拡大による地域経済の活性化

状況の変化に対応するために

■「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに必要な要素

- 観光地域づくりを牽引する中核人材の育成
- 地域の幅広い事業者と連携し、地域戦略の立案、マネジメント、地域資源を活用した滞在プログラムの企画・造成など、観光地域づくりを牽引する人材を育成。

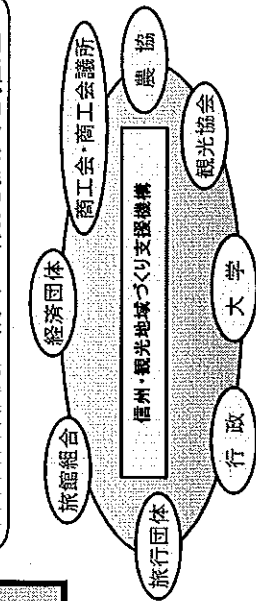
【参考】「信州・観光地域づくりマネジメント塾」の実施(平成24年度～)
※観光地域づくりを牽引していく人材を持続的に育成していく

- 地域と観光客をつなぐワンストップ窓口「観光地域づくりプラットフォーム」の構築及び事業運営の支援
- 地域全体の情報発信・商品造成を一元的に行う機能を担う体制を構築。「観光地域づくりプラットフォーム」が実施する観光地域づくりの事業に対する支援。

信州・観光地域づくり支援機構

県内のシンクタンク、経済団体、旅行団体、農協、行政機関など多様な事業者間の連携で構成

県内の観光地域づくりを多面的に支援していく体制を構築し観光振興を推進



支援

長野県の「観光地域づくり」を牽引する中核的な人材を持続的に育成する仕組みを構築するため、
「信州・観光地域づくりマネジメント塾」を実施する

「観光地域づくりの中核となる人材」の姿

1. 【リーダーシップ】観光地域づくりを貫くコンセプトにより、地域住民を巻き込み、牽引する人材
2. 【地域戦略の企画・立案】地域資源の磨き上げとそれらを活かしたプログラムづくりの中心となる人材
3. 【地域全体のマネジメント】地域が主体の流通・販売・サービス体制を作り、その運営の中心となる人材

「信州・観光地域づくりマネジメント塾」の実施

- 主催：長野県、社団法人信州・長野県観光協会
- 共催：信州・観光地域づくり支援機構
- 塾長：清水 慎一氏（立教大学観光学部 特任教授）
- 講師：山田 雄一氏（公益財団法人日本交通公社主任研究員）
- 受講者：20名程度（第1期・第2期）

・地域全体のプロモーション、誘客の仕組みづくりの実務経験がある者を選考

- 受講期間（年間10回開催）

・第1期生

【基礎編】平成24年度

【応用編】平成25年度

・第2期生

【基礎編】平成26年度

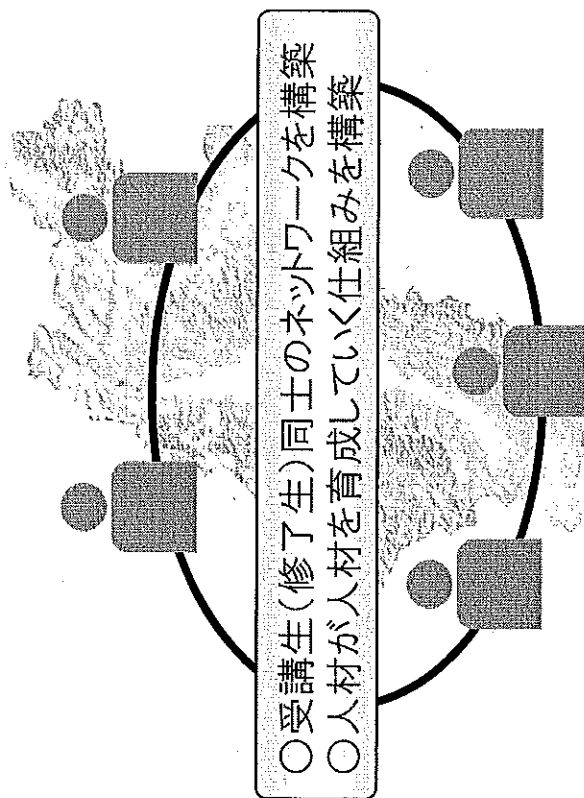
【応用編】平成27年度

※第1期生が講師を務める

- 受講料

・3万円/年（他に受講に要する旅費、資料代の負担あり）

中核人材を育成するために



長野県の「観光地域づくり」を牽引していく中核人材を持続的に輩出し、観光振興を推進